



本郷台中だより

～学ぶ楽しさを知り、夢や希望を育む学校～

令和6年度第13号

令和7年1月31日

文京区立本郷台中学校

校長 江熊 秀昭

食 と 風 習

校長 江熊 秀昭

今年の節分は2月2日です。「節分」とは「季節を分ける」という意味です。季節を分ける日は年間4回あり、春夏秋冬それぞれに始まりの日が決められています。「立春」「立夏」「立秋」「立冬」で、始まる前の日を「節分」と呼びます。始まりの日は、太陽の動きによって決まるため毎年同じ日ではありません。

節分と言えば豆まきで、これは中国伝来の風習です。季節の変わり目には邪気(鬼)が生じると考えられ、その鬼を追い払い、無病息災を願う儀式として、706年に宮中で初めて行われた記録があります。そして室町時代頃から「立春」は冬から春になる1年の境目であるため、新年を迎えるのと同じくらい大事な日として特に重要視され、豆まきが世の中に広がっていきました。節分の食べ物は地方ごとに特色があります。

関東地方では「けんちん汁」で、野菜がたっぷり栄養があり、体を温めてくれることから寒い時期に好まれます。鎌倉にある建長寺で野菜くずなども無駄なく使おうと作られた汁物が「建長寺汁⇒けんちん汁」に変化したという説があります。

関西地方では「鯛」と「恵方巻き」です。「鯛」は食べるのではなく魔除けのために飾られます。臭いものや尖ったものには魔除け効果があるとされ、焼いた鯛の頭を柊(ひいらぎ)の小枝に刺した「柊鯛」を作ります。また、商売繁盛を願って食べる「丸かぶり寿司」があります。関西地方の一部で続いていた習慣



ですが、平成10年(1998年)に大手コンビニエンスストアが「丸かぶり寿司 恵方巻き」と全国販売したことで「恵方巻き」という名称、習慣が定着したと言われています。私の母親は大阪出身でしたが、「そんな風習は知らない」と行っていました。恵方とは、その年の福を司る神様、歳徳神(としとくいじん)のいる方向で、今年は西南西です。

群馬県、島根県、山口県、四国などでは「こんにやく」です。こんにやくは食物繊維が豊富で、おなかの掃除をしてくれるため「砂おろし」「胃のほうき」ともいいます。こんにやくを食べることで体内の砂を取り除き、身を清める目的でこんにやくを食べます。

長野県、島根県などそばの名産地では「そば」を食べます。昔は立春が1年の始まりで節分が大晦日でした。今では「年越しそば」と区別するために、「節分そば」ともいいます。

島根県、山口県、長崎県などでは「くじら」を食べます。これらの県などでは「大晦日に大きい鯨を食べると縁起が良い」と言われています。今も「大きなしあわせ」「子どもが大きく成長すること」「志を大きく」「心を大きく」という願いを込めて節分に大きな鯨を食べる習慣が残っています。

各地で共通しているのは「豆」を食べることですが、「数え年」の数と言われます。最近では耳慣れない言葉ですが、「数え年」とは、生まれたその日にすでに1歳で、元日に年を重ねる数え方です。

元日から誕生日前までは満年齢 + 2歳

誕生日当日から12月31日までは満年齢 + 1歳

となります。



各地で古くから続く風習もあれば、平成になって全国に広まった慣習もあります。日本は四季折々の変化があり、それを活かした食を育んできました。先人の食への想いを受け止め、意味を考え、味わいながら食を楽しんで欲しいと思います。

いつの時代、どの地域でも健康にしあわせに過ごせますようにという人々の願いに変わりはありません。

節分で豆をまき、豆を食べ、健康に学習に励み、3年生が進路決定という本願を果たすことを願います。



2月行事予定

3日	月	全校朝礼 展示発表会(始)
5日	水	専門委員会
6日	木	学校評価者委員会
8日	土	土曜授業 国際理解教室2・3年 展示発表会(終)
10日	月	展示発表会片付け
11日	火	建国記念日
12日	水	校内研修・4時間授業
17日	月	学年朝礼 新入生保護者説明会 15:00
20日	木	学校評価者委員会
21日	金	都立高校一次・前期学力検査
23日	日	天皇誕生日
24日	月	振替休日
26日	水	第4回定期考査(学習・社会・数学・技術家庭)
27日	木	第4回定期考査(学習・理科・国語・美術)
28日	金	第4回定期考査(学習・英語・音楽・保健体育) 避難訓練 学校保健委員会